

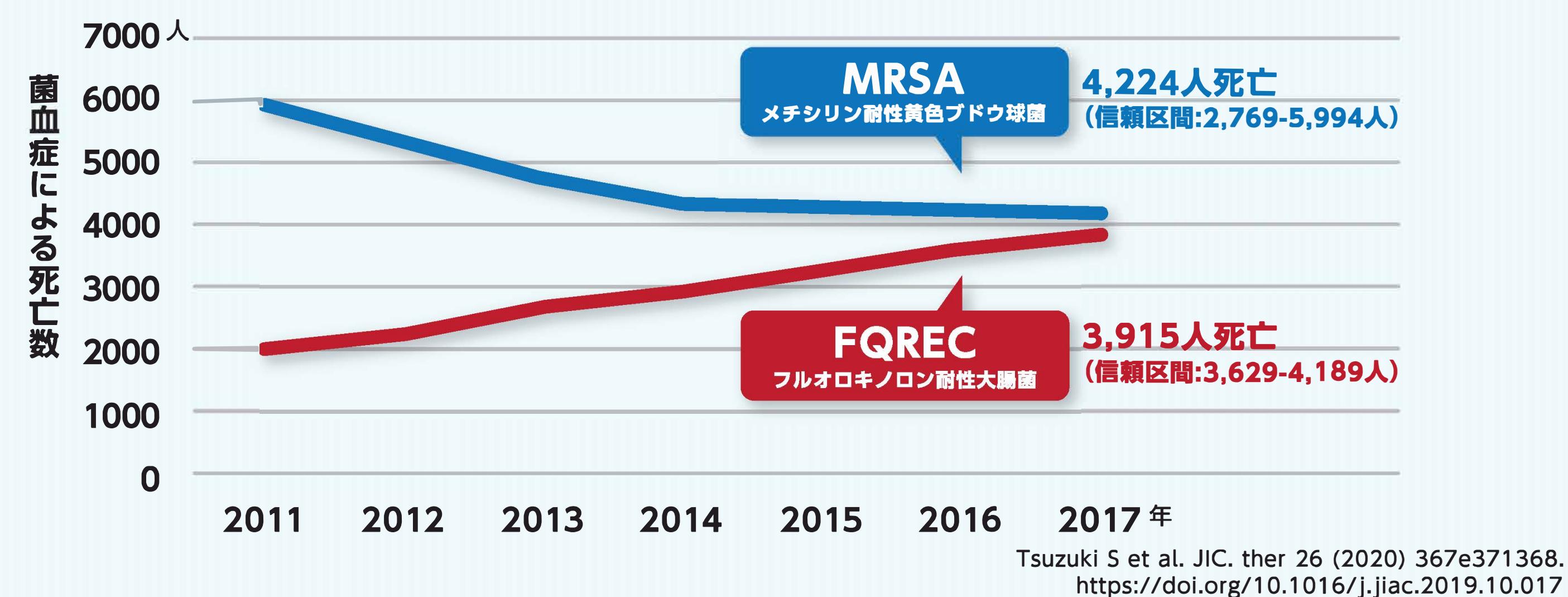
Antimicrobial Resistance

薬剤耐性の脅威を知っていますか？

薬剤耐性とは、抗菌薬を使うことで病原体が変化し、特定の種類の抗菌薬・抗生物質が効かなくなる、効きにくくなることです。

薬剤耐性によって世界では2019年におよそ127万人が死亡していると推計されています。このまま何の対策も講じなければ、約30年後には1,000万人が死亡すると予想され、がんによる死者数を上回ります。2015年に世界保健機関(WHO)総会において薬剤耐性に関する国際行動計画が採択され、日本でも薬剤耐性問題に取り組むため、2016年に薬剤耐性(AMR)対策アクションプランが策定されました。

日本では2種類の薬剤耐性菌の菌血症で年間8,000人が死亡
(メチillin耐性黄色ブドウ球菌とフルオロキノロン耐性大腸菌)



2019年 薬剤耐性が直接の原因で世界では 127 万人が死亡

[https://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736\(21\)02724-0/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736(21)02724-0/fulltext)

薬剤耐性とワンヘルス

抗菌薬は人や動物の医療以外にも、畜産、水産、農産物などあらゆる領域で使われています。薬剤耐性を持つ遺伝子が環境や食品などを介して、人や動物へ伝播する可能性があるともいわれています。

「ワンヘルス」とは、人の健康だけではなく、動物の健康や環境の保全は等しく健全でなければならないという考え方です。わたしたちの周りでは、開発による生態系や、環境の破壊、気候変動による影響、経済や社会的背景などさまざまな課題があります。人、動物、環境に関わるそれぞれの分野の人々が連携し、横断的に課題解決を図っていくことを「ワンヘルス・アプローチ」といいます。わたしたちもワンヘルスの理念に基づいて、社会全体として共に取り組んでいく必要があります。

